

大 き さ：h250 × w900 × d550cm

素 材：ビデオカセット、低速モーター、IC、プロジェクター、100v電源等

発表場所：夏池篤展 アートカゲヤマ画廊

発 表 年：2011年9月5日～9月11日

DVD、ブルーレイディスクに取って代われ、過去のものとなってしまったビデオテープ。今となっては社会に溢れる厄介者のひとつとなっているが、そこには過去の膨大な記録と記憶が書き込まれている。延々と繰り返されるテープは、視覚化された時間とも言えよう。

天井にセットされた50本のカセットは、低速モーターによりごくゆっくりとテープを床まで吐き出していく。壁面にはそのテープ越しに国内三カ所の風景を映写する。それは、版画「東海道五十三次」の雨のシーンで知られる神奈川県の大磯、三重県の庄野、滋賀県の土山で、それぞれ推測できる現在の場所を撮影したものである。

密かに伸びるテープは現代社会に忍び寄る不安を思

い起こさせ、その黒い雨は版画の美しいシーンを流し去るかのように床に広がっていく。

しかしこのテープ、ある時点で偶然がプログラムされている。途中で一瞬動きを止め、その後そのまま回り続ける場合と、逆転する場合があるのだ。それは交流モーターが一時停止した時点の磁石の僅かな位置の違いによって決まる。

近代化の名の下に繰り返されてきた大量消費とそのあげくの大量破棄の流れは、もう許されないとこまで来ている。そしてその流れを押しとどめ、再生に目を向ける様々な動きが目立ってきている。しかし社会という欲望の渦の中にあっては直ちにその方向を修正することは難しいかもしれない。作品のテープの流れが僅かなスタンスの違いによって切り替わるように。



